

厳寒期がジャンボタニシの防除適期です!!

令和7年の県内でのジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）による食害（図1）は少なかったものの、次年度に向けた冬期の防除が重要です。

ジャンボタニシは、水田では土中に浅く潜り込んで越冬します（図2）。県南部地域で、このような貝がいる水田では、冬期の防除を徹底してください。



図1 ジャンボタニシの食害により
欠株が生じた水田



図2 土中に浅く潜り越冬中
のジャンボタニシ

【ジャンボタニシの厳寒期防除を徹底しましょう】

ジャンボタニシは寒さに弱いので、厳寒期に水田の表層5cm程度を浅く削るように数回耕うんし、**寒さにさらしたり、貝を破碎すること**で、水田で越冬する貝を減らすことができます。耕うんは尾輪を装着し（図4）、速度をゆっくり、ロータリーの回転を速めにし（図3）て丁寧に耕す（図5）ことでより高い効果が得られます。

厳寒期が防除適期です。ぜひ行いましょう。

＜防除上の参考事項＞

- 1 ジャンボタニシは主に用水路や水田で越冬する。
- 2 水田では浅く土中に潜り込んで越冬するが、マイナス3℃の条件下では2～3日でほとんどの貝が死滅する。
- 3 田植後3週間までのイネを食いちぎったり、水面に浮かぶ葉を引き込むように食害し（図3）、田植後の水深が4cmを超えると被害が増加する。



図3 イネを食害している
ジャンボタニシ



図4 尾輪の装着（矢印）



図5 厳寒期の水田の耕うんによるジャンボタニシの防除

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



厳寒期に取り組む ジャンボタニシ対策



ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の食害が激しいと、イネが株ごとなくなってしまう、大幅な減収につながります。ジャンボタニシは用水路や水田で越冬し、水田では土中に浅く潜り込んで越冬します。

ジャンボタニシがいる水田では、厳寒期（1～2月）の対策を徹底してください。

厳寒期の耕うんでジャンボタニシの越冬数を減らしましょう！



厳寒期に水田の表層を5cm程度削るように数回耕うんしてジャンボタニシを寒さにさらし、また、破砕することで越冬数を減らします。

耕うんは尾輪を装着し、速度をゆっくり、ロータリーの回転を速めにして丁寧に耕すことでより高い効果が得られます。

暖冬の年はジャンボタニシが寒さで死滅せず、生き残って越冬する個体が多くなるので、田植期～水稻生育期の対策※を徹底してください。

【田植期～水稻生育期に実施する対策】

1

用水路の卵や貝を地域ぐるみで捕殺しましょう

卵塊を早めに水面下へ払い落とし、卵がふ化できないようにします。

地域ぐるみで取り組むとより効果的です。



2

農業用水からの侵入を防ぎましょう

水田の入水口と排水口に目合い9 mm程度※のネットや金網を設置しましょう。

右の写真では、ポリエチレン製のネットを使用しています。

※目合いが粗すぎると小さな貝がすり抜け、細かいとゴミが溜まりやすい。



3

田植後は浅水管理で被害を防ぎましょう

イネが加害されるのは田植後約3週間です。その間、水深をできるだけ浅く保ちます。水深が4 cmを超えると被害が増加します。

また、ほ場の均平も重要で、ほ場が凸凹だと深いところの株が食害されやすくなります。

4

田植後に農薬で適切に防除しましょう

上記1～3の対策に加え、登録のある農薬での防除を組み合わせることですらなる被害の軽減を図りましょう。

詳しくは、お近くのJAもしくは農業普及指導センターへ
お問い合わせください。